

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム ふじのかわ

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200152		
法人名	医療法人 仁泉会		
事業所名	グループホーム ふじのかわ		
所在地	〒027-0029 岩手県宮古市藤の川11番5号		
自己評価作成日	令和2年7月2日	評価結果市町村受理日	令和2年9月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームふじのかわは、宮古市中心部から少し離れた高台で、目の前には宮古湾が見える見晴らしの良い場所にあります。当ホームは、2階建ての住宅改修型で、和・洋室の6・8・10畳のお部屋があります。階段や段差もあるため、自宅に近い環境での生活を送ることができます。昨年度から、学習療法実践士が3名在籍していたこともあり、くもんの学習療法に取り組んでいます。現在は、常勤務者全員が学習療法実践士の研修を受け、いつでもできるようになっています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市街地から海岸沿いに南下した高台の住宅街に事業所はある。建物は民家を改修しており、2階の一部居室からは宮古湾を望むことができ、近くには商業施設や公立学校もある。事業所が属する医療法人では宮古市内でも介護老人保健施設を中核に訪問看護や訪問介護、通所介護、認知症共同生活介護などの事業を行い、法人内の研修、身体拘束廃止委員会の設置、災害時の避難対応等も連携して行われている。「避難勧告等に関するガイドライン」に基づき、夕方4時ころまでに市からのエリアメールで情報を得て、警戒レベル基準3になると、市や地域の方と連絡を取り合い、法人内の老人保健施設に避難している。警戒レベル基準3以上の大雨等で3回実際に車で避難するなど、早め早めの対応を行っている。民家を改修した2階建て建築物で防火面等で課題もあるものの、必要な防災設備は整っている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年7月28日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の目の届くところに掲示し、いつでも確認できるようにしている。また、日々の生活や会議の際に、理念を共有し実践できるよう努めている。	平成29年度に職員全員で話し合い、自分たちが「思うべき姿」として理念を見直すとともに、理念の実践のため、三つのケア方針を定めている。日常的には、月1回のカンファレンス等で具体的事例を理念に照らして検証し合ったり、介護実践手段の一つとして認知症に対する学習療法を用いるなど、理念の実践を意識して取り組んでいる。また、理念に沿った個人の業務目標を掲げて取り組んでいる職員もいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	昨年の敬老会では、地域の方2名に、歌とハーモニカ演奏して頂き、一緒に唄い楽しい時間を過ごした。現在、新型コロナウイルス感染予防のため、関わる機会が減っている。	自治会に加入し、管理者が地区総会に参加し、福祉に関する質問を多くいただき、地域での認知度を高めている。今年度はコロナ禍により地区総会は中止となっている。ご近所の住民からは、継続的な庭木剪定や雪かきの手伝いを頂いているほか、野菜などの差し入れもある。犬の散歩の途中で立ち寄り利用者とは交流していくこともある。また、災害避難時には、地区長と支援・協力下さる方に不在にすることを伝えた上で避難するなど、地域の方々と「声かけあう」関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年度まで、看護学生の実習を受け入れを行っていた。また、地区総会後の会食会で、地域の方の介護に関する質問に答えたりしていたが、今年度は、新型コロナウイルスの影響もありほとんどできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	通常では、2ヶ月に1回の運営推進会議を行い、ホームの取り組み状況を報告している。また、参加者からの意見や情報提供を頂き、ホームの運営に役立てていたが、コロナウイルス感染拡大防止のため、宮古市の通達で昨年度3月から開催中止の指示にて、会議を行っていない。	運営推進会議は地区長、宮古市介護保険課職員、利用者代表・家族代表、管理者等で構成され、2ヵ月毎に開催し、利用者の状況や提供しているサービスの内容のほか、行事、研修、外部評価結果などの運営状況の報告を行ない、意見を頂いている。3月に市からの「新型コロナウイルス感染拡大防止」の通知があり、運営推進会議開催しないように要請があり、それ以降は開催していない。委員の増員については、委員や市と相談しながら具体化に向けて取り組んでいる。	

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム ふじのかわ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話やメール・FAXで連絡を取り合い、情報交換・提供を行なっている。大雨等による避難の際も、連絡を取り合い状況を報告している。現在は、新型コロナウイルスに関するチェックリスト兼報告書を毎週月曜日にFAXして、ホームの状況を報告している。	日頃から市とは、電話やメール、FAXで連絡を取り合い、情報交換等を行っている。大雨による避難に関する事業所からの要望に対しても、市では、明るいうちに避難できる午後4時頃までに連絡するよう改善するなど、相互に連絡を密にしながら対応している。新型コロナウイルスに対しても「感染防止の為にチェックリスト兼報告書」に1週間分の必要事項を記載し、FAXで毎週市に報告している。介護保険制度運営に関することや運営推進委員の増員の相談にも応じていただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関する指針を外部の方も確認できるように掲示している。年に1回ホーム内や法人内でも、勉強会や研修を行ない身体拘束をしないケアに努めている。	法人全体で身体拘束廃止委員会を設置し、各事業所の代表者等で委員構成している。年に2回の事業所又は法人の研修では、身体拘束に該当する事例を示し具体的な研修としている。外出願望の強い人には、落ち着くまで散歩等のお付き合いをしながら、願望の背景や思いを把握するなど、認知症行動への対応を工夫している。事業所は身体拘束する場ではなく、自由に出入りが出来る所であることを家族に説明し、理解した上で入居していただくようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の研修会実施、ホーム内でも勉強会を行ない、職員は、理解をしケアを行うよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際、成年後見人制度を利用している利用者があるため、随時、確認しながら支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前やまたは改定時に、管理者の方で説明を行なっている。不安や疑問に関しても、面会時や電話で、その都度受けて対応している。		

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム ふじのかわ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しているが、電話や面会時・メールで対応することが多い。いつでも家族からの連絡があれば、職員同士で情報を共有し、意見や要望に沿えるよう努力している。	毎月請求書と一緒に、お便りとして、個々の利用者の生活の様子や体調などを写真入りで送付している。その中に家族の意見、希望を記入してもらう欄を設けているが、意見等は電話や面会時に伺うことが多い。また、運営推進会議には、新しく入居された方の家族や、意見を言える入居者の方も加わっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の業務会議やカンファレンスの際に、業務に関する意見交換を行なっている。また、定期的に個人面談を行ったり、申し送りノートを活用して、気づいたことなどの意見を出し合える場として活用している。	法人として目標管理と人事評価を合わせた制度を導入し、キャリアに沿ったレベルでの業務目標の設定とその取り組みを「事業計画目標及びマネジメントシート」で評価しており、年3回、職員と個別面談を行い、その際に運営に関する意見等も確認している。また、事業所で行う月1回の職員会議やカンファレンスや申し送りノートなどを活用し、入居者の処遇に関することなどの意見や提案を出し合い実践に生かしている。職員は普段から意見や提案を管理者に話している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人目標を設定してもらい、達成度に応じた評価と普段の仕事内容を評価表に記載し、給料等に反映している。個人面談を行うことで、個々の事情に合わせて働きやすい勤務表作成に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の業務会議で勉強会を行ったり、新型コロナウイルスの影響もあり、法人内研修は、eラーニング方式で研修を行なっている。介護職員実務者研修の支援制度もあり、介護福祉士取得支援も行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会の時は、沿岸北ブロックでの研修会や管理者会議が等で交流する場が多かったが、いわて地域密着型サービス協会になってからは、集まる機会が少なくなっているが、何かあったときは、情報交換を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談を行い、要望などを伺っている。入居後は、日常の行動や言葉に耳を傾けて観察を行ない、職員間で話し合っ統一したケアをすることで、安心した生活が送れるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に面談をして、何かあれば連絡し合い、安心して入居できるよう対応している。入居後も要望や不安なことを聴き、都度対応できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の意向を聴き取り、ケアプランに反映して取り組んでいる。入居者様の身体状態に応じて、他の介護施設利用のアドバイスをしたり、系列のグループホームや老人保健施設のサービスが利用できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできることを把握して、家事作業の声がけを行ない、職員と一緒に作業を行なうこともある。作業後は、感謝の声がけを行なっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の状況は、面会時や毎月発送しているお便りで報告を行い、急な体調の変化時は、電話連絡を行なっている。必要に応じて、通院の同行をお願いして、共に支えていく関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前は、外出に積極的だったが、利用者の友人も高齢になり、お誘いがなくなっている。現在、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、面会制限が無期限で行われている。このような状況だが、窓越しの面会や電話で会話できるよう、やれる範囲で支援している。	現在、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、面会制限が無期限で行われているため、窓越しの面会や電話で会話できるように配慮している。入居前のかかりつけ医の受診を継続したり、買い物代わりにドライブを多くしたり、できる範囲で関係性継続の支援を行っている。訪問理容師が2か月に1回来訪して利用者の整髪をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の生活リズムや、利用者同士の関係性を大事にし、必要に応じて職員が橋渡しをすることで、支え合えるよう支援している。また、誕生会等の行事を毎月設定し、全員で1つの事に取り組み利用者同士が関わり合える場を設けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	何かあればいつでも連絡をくださるように伝え、経過を見守っている。家族からの相談や問い合わせがあった場合は、関係機関へ情報提供を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前の面談や日頃の話聴き、意向を把握している。意思疎通が困難な方は、生活歴・職歴を知り、日常生活で発した言葉等から、カンファレンスで意見交換して、利用者寄り添ったケアの提供に努めている。	意思を言葉で伝えることが出来る入居者は半数ほどおり、本人や家族との事前の面談や日頃の会話等から、意向を把握している。意思疎通が困難な利用者は、生活歴、職歴を確認しながら、日常生活で発した言葉や会話のやりとり、表情、仕草などから、思いや意図するところを汲み取り、カンファレンスを行いケース記録を見ながら、その積み重ねで意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、それまでのサービス事業者の方に、生活歴や得意なこと好きなことなど聞き、入居後の支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録やケアチェック・バイタルチェック表等を活用して、職員一人ひとりが現状を把握し、情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のカンファレンスで、評価・状態変化に伴う見直しを行なっている。家族にも説明して意向を伺い、状態に合わせたケアプランを作成している。	担当職員を中心にモニタリング資料やサービス評価表をもとに、本人や家族の意向の反映を意識し、毎月カンファレンスを実施している。介護計画の目標期間は3ヵ月としているが、見直しが必要とされた場合は、最終的に計画作成担当者が変更している。原案作成後、家族に説明し意向を確認しながら、踊りの趣味の継続を目標にするなど、現状に合わせた介護計画を作成している。	

事業所名 : グループホーム ふじのかわ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は、日々の利用者の言動を把握して、ケース記録へ記入している。気づいたことを申し送りノートに記入し、職員間で情報を共有してケアプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、他の介護施設の特徴を説明して、必要時には転居できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の方に挨拶をして、会話をする機会を作っている。火災・災害時の協力体制もあり、安全に暮らせるように協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望に沿って、受診先を決めている。特に希望がない時は、ホームの協力医の説明をし、納得した上で受診している。	本人や家族の希望に沿って、受診先を決めているが、かかりつけ医を継続している利用者が大半の6名となっている。特に受診先の希望等がない利用者は、納得を得た上で協力医を受診している。受診は原則家族対応だが、定期の通院のほとんどは職員が付き合い、受診結果は毎月家族に報告している。認知状態や健康状態の悪化などにより、家族の同伴が必要な場合には、医師の説明などを一緒に受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師の来設。体調不良時は、24時間連絡できる体制が整っており、相談・指示を受けられるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	安心して治療ができるように、入院先の主治医・担当看護師に病状経過を聞き、医療連携室職員と連絡を取り合い退院調整を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当ホームでは、看取りを行っていないが、本人・家族へホームでできること、できないことの説明を行ない、必要に応じて老人保健施設の転居を勧めている。	建物構造などから、事業所の看取りは困難な現状にある。建物は2階建の民家を改修したため、浴槽が一般家庭用で深く浴槽に入れなくなった場合、車いすを使うようになった場合には、別の事業所を利用していただくことを入居時に説明している。また、看取りが出来ないことから、重度化に伴う事業所の利用変更が近づいた時点で、法人内老人保健施設入所も含め、次の対応を一緒に考えながら支援していくことを説明し、理解を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時等に備え、全職員が救急救命講習会へ2～3年に一度の頻度で受講し、緊急時に対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防避難訓練は、近所の方にも参加して頂き、協力体制を築いている。災害訓練も年1回行っている。警戒レベル発令時に避難する際も、近所の方に声をかけ、ホームを留守にすること、留守中に何かあれば連絡を頂けるようになっている。	令和2年には、大雨等で3回避難している。夕方4時頃までに市からのエリアメールで情報を得て、警戒レベル基準3以上になると、市も了解済みの法人の老人保健施設に避難する。災害に備え2、3日分の食料を備蓄しガス式発電装置も備えている。火災避難訓練は、消防署の立ち合いの下、住民の協力を得て年2回実施している。火災自動通報装置やスプリンクラー、消火器等の防災設備を設置しているが、柱が多い2階建てという構造であり、1階で火災が発生した場合には煙等による危険性が高まる怖れがある。	1階で火災が発生した場合、煙での被害が想定され、2階へ続く階段は煙の通り道になるため、その通りを遮断する防災シールド等の簡易的防煙予防対策を検討をするとともに、避難訓練時に必要な「推定所要時間計算」を用いたり、ダミーを使った避難訓練を行い、より具体的に近い状況を経験することで、設備や工夫された訓練を通じた効果的な防災対策を期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の性格や認知症状を理解し、自尊心を傷つけないように声がけ・介助を行うようにしているが、利用者のことを理解できていない職員がいて、その職員の発言で自尊心を傷つけている時もある。	多くの職員は、利用者の認知症状等を理解し、自尊心を傷つけないように声がけや介助を行っている。しかし、中には入居者の特徴を理解することが不十分な職員もいる。入居者を介護する場合、一人一人を大切に声掛けや対応が重要であることを理解させるため、不適切な行為があった場合には、具体的な事実関係を記録し、その行為等を職員間で話し合いながら、誇りやプライバシーを損ねない関わり方が出来るように職員に意識させている。	



令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ふじのかわ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が、意思表示できる声かけや選択肢を掲示して、自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活ペースを大切にし、なるべく本人がしたいことを行えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回程度、ホームに理髪店に来てもらっている。会話ができる利用者には、理容師とどのようにカットしたいか？直接やり取りをして頂き、本人の希望に沿ったヘアスタイルにしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	役割は決まっていないが、自ら声をかけてくれ、手伝ってくれる方もいる。「いただきます」の挨拶をしてもらったりと、楽しむことのできる時間になっている。	献立は、職員が担当し、利用者の希望を聞きながら1週間単位で作成している。入居者の役割は決まっていないが、率先して食器拭きやテーブル拭きなどを手伝ってくれたり、食事前に「いただきます」の挨拶をするなど、出来ることで一緒に関わっている。誕生会の行事食等は、利用者から聴き取りしながら作っており、年3回くらい出前のお寿司を利用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人の管理栄養士から栄養バランスの指導と、主治医から病状や採血結果で、食事・水分量の指示を受け、利用者の咀嚼・嚥下状態に応じ、食事形態の工夫を行っている。また、摂取量の記録を取り、状態管理を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者の状態に合わせて、声かけ見守りを行い清潔保持に努めている。個々の認知状態や口腔状態に合わせて、口腔ケア用品を準備してケアしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけて、個々の排泄パターンを把握し、必要に応じて声がけ・誘導・介助を行っている。排泄の訴えができない利用者には、本人の表情や行動などから察知し誘導・介助を行っている。	排泄チェック表により個々の排泄パターンを把握し、誘導のタイミングを確認し、必要に応じ声がけ、誘導、介助を行っている。日中は、リハビリパンツや加えてパッド使用の方が6人、布パンツ使用は2人で、全員トイレ使用となっている。夜間は、オムツ1人、ポータブルトイレ3人となっている。排泄の訴えができない利用者には、本人の表情やお腹を触るしぐさなどの行動サインから察知して誘導、介助を行っている。その際、声掛け、誘導は他の入居者がいる前でなくさりげなく行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量・水分量の把握やオリゴ糖を摂取すること、便秘の状況を主治医へ報告し、適した内服薬を処方してもらうことで排便がある。食事の際、早食いで丸呑みしているような利用者には、少しでも消化が良くなるように刻み食を提供するなど個々に対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	通常は、午後に入浴支援を行なっているが、働き方改革等で、午後勤務する職員が少ない時や行事がある時は、午前入浴になることもある。入浴のタイミングは、本人の希望に沿って支援している。	毎日入浴できる体制にあり、1日3人が入浴している。通常は午後の入浴だが、午後勤務する職員が少ない時などは、午前入浴に変更することもある。浴槽が深いため、浴槽の中に椅子を置き、腰を掛けて座れるようにし、その椅子は浴槽の出入り時の踏み台としても使っている。入浴を嫌がる利用者には、声掛けや日をずらすなどの工夫を行っている。入浴のタイミングは、本人の希望に沿って支援している。入浴介助は1対1で行い、コミュニケーションの場としても活用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	部屋の明るさや室温など調整し、ゆっくり休むことができるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容は、いつでも確認できるように、事務所内に通院録と一緒に保管している。変更時は、通院録や申し送りノートに記載し、確認できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なことを把握し、活かすことができるよう支援している。また、好きなお菓子や飲み物で、気分転換ができるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響で、外出頻度は減っている。以前は、家族との外出をしていた利用者も、面会制限をしているためできていない。職員の方で、初詣や花見・天気の良い日を選びドライブをして、気分転換を図っているが、全員は行えていない。	以前は、家族との外出をしていた利用者もいたが、新型コロナウイルスの影響で面会制限をしているため、外出頻度は減っている。職員で初詣や花見にドライブを企画し出かけたり、天気の良い日はドライブをして車窓から景色を楽しむなど、気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでは、個人の所持金に関して管理していない。現在、入居している利用者は、現金を所持している方はいないが、本人の欲しいものは、家族が持参したり、ホームのお金で立替えて購入できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で電話をかけたり、受けたりの支援は行っている。毎年、年賀状に一筆書いてもらったり、字が書けない利用者は、おみくじシールを選んでもらったりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節行事や、季節感を感じて頂けるよう、利用者と一緒に装飾することもある。共有スペースの食事席・長椅子・ソファは、自由に使えるようになっており、気の合った利用者同士で、会話を楽しく過ごせるようになっている。壁には、各利用者の写真が掲示してあり、利用者同士の話題作りの1つになっている。	建物は2階建であり、民間会社の寮を改修したものである。玄関から入ると、左側に食堂や居間のスペースが有り、食事用椅子、長椅子、ソファは、自由に使えるようになっている。気の合った利用者同士で、会話し楽しく過ごせるように椅子を配置している。壁には、利用者の写真を掲示し、季節行事や季節感を感じる装飾を利用者と一緒に作成することもある。掲示物が利用者同士の話題作りの一つになっている。民家を改修した建物であるため空間が広過ぎず、施設というより家庭の延長と感じ取れる作りとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にあるソファでは、気の合う方と会話をしたり、一人になりたい時は、居室で過ごすことができるようにしている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ふじのかわ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ご せるような工夫をしている	本人や家族と話しながら、好きな物・希望の物を 使用できるよう、また、家族からの写真などを飾 り、居心地の良い空間作りを心がけている。	居室には、タンスとベッドが備え付けになっている 。各居室には、以前の所有者が置いて行った 家具が設置時からある。1階は洋室、2階は洋室 と和室の作りになっている。2階は5居室があるた め、階段には転落防止用の柵やモニター、コー ル等を設置し、安全に配慮している。入居者や家 族と話し合いながら、好きな物等を使用できるよ う、また、家族の写真等を飾り、居心地の良い空 間作りを心がけている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づ くり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わ かること」を活かして、安全かつできるだけ 自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室が分かるように張り紙をすることで、 場所が分かるようにしたり、階段には滑り止め マットを敷いて、安全に昇降できるようにしてい る。		